

# 鴨川のいきもの

～鴨川をのぞいてみよう～

## ? かもがわ 鴨川ってどこだろう?

京都は、「山紫水明」とうたわれ、その中心部を流れる鴨川は、古来より京都の文化を築くのに大きな役割を果たしてきました。高野川との合流点より以北を「賀茂川」と表記する場合がありますが、現在の河川法では、雲ヶ畑から下鳥羽で桂川と合流し、淀川に流れ込むまでの約23 kmを「鴨川」としています。この水槽では、上流を雲ヶ畑、中流を出町柳あたりとして、それぞれにすむ「いきもの」を飼育しています。



## ? 上流と中流ですんでいる生き物が違うの?

水槽に入っているのは鴨川（賀茂川）にすむ生き物の一部で、上流にはアマゴなどが、中流にはフナなどが泳いでいます。

※時期により、いない場合もあります。

では、どうしてすんでいる生き物が違うのでしょうか。その理由の1つに上流と中流の水温の違いがあります。川の上流にキャンプなどに出かけたとき、水に手をつけると、冷たいと感じられたことはないでしょうか。

水の中にすむ生き物も、私たちと同じように呼吸により酸素を取り入れています。酸素は冷たい水ほど多く溶け込むことができるので、上流の水ほど酸素が多く含まれています。また、滝などで生じる水しぶきはエアープンプのはたらきをしています。その上流の生き物は下流では酸素不足になり活動することができないのです。



アマゴ

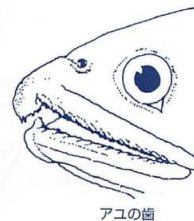


オイカワ

## ? 石についている緑のものは何?

川底には緑色のぬるぬるしたものがついてる石があります。これは微小な藻類が付着しているのです。これらの藻類は魚や貝や水生昆虫の重要な食物となっています。

展示してあるアユがすむ川の石についているすじは、アユが石についた藻類をはぎとって食べた「はみあと」です。アユは藻類をはぎとるのに適した歯をもっています。



アユのはみあと

## たんきゅう 探究・研究コーナー！ 調べてみよう！

身近なところにある川の水を調べて水質調査をしてみましょう。その地点に住む生物を調べることにより、水質などの川の環境がよくわかります。このように川の環境状態を私たちに教えてくれる生物を指標生物といいます。詳しくは国土交通省から発行されている「川の生き物を調べよう」を参考にしてください。また、鴨川の生態系を守るために、水環境が少しでも良くなるために私たちができることはなにでしょうか、考えてみましょう。次のホームページが参考になります。

国土交通省 [http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/kasen/pamphlet/pdf/kawanoikimono\\_panfu.pdf](http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/kasen/pamphlet/pdf/kawanoikimono_panfu.pdf)